



みなさん、こんにちは。

今日は、業務紹介第15弾として、都市分野の業務内容を、都市局都市計画課小澤係長（入省6年目）より語ってもらいました！



小澤係長（入省6年目） ※左から2番目

1. 都市分野の業務の国交省における役割を教えてください。

都市では、個人、民間企業など様々な主体が社会経済活動を行っており、その活動こそが都市の力の源ですが、「よい都市」「よい空間」を目指すためには、それだけでは問題も生じてしまいます。例えば、街路、公園、下水道などの社会インフラは、都市における活動には不可欠ですが、放っておいてもできるものではありません。また、自分の土地だからといって各々が好き勝手に建物を建ててしまえば、問題が生じてしまいます（たとえば住宅地の真ん中にいきなり工場ができれば困りますよね）。少子高齢化、地球温暖化など、社会的課題への対応も必要です。そこで、「よい都市」「よい空間」を目指すために、将来像を計画し、それを実現するための手段が必要となってきます。

「よい都市」「よい空間」を目指すにあたって、実際の空間のデザインをするのが建築家やデザイナーの仕事だとすると、それを実現するための「しくみ」のデザインをするのが国の仕事といえます。「しくみ」とは、具体的には、法律、予算、税制といった制度のことです。すべてを公共が担うのではなく、民間の力も活用することが重要で、誤解を恐れずに簡略化すれば、「社会にとって望ましいこと（みんなのためになること）をすると、得をする」ように「しくみ」を作っていく、ということです。

また、決して抽象的な議論のみをしているのみではなく、予算等を通じて実地のプロジェクトともつながっています。実地のプロジェクトにおいては、多様な関係者と議論、調整をしながら、全体として「よい都市」「よい空間」を目指していきます。

2. 現在の目玉施策を教えてください。

都市政策は、広域から空間レベルまで、多様なスケールが対象となることが特徴です。市町村レベルのスケールでは、コンパクトシティの取組みを進めています。地域を切り捨てる、と誤解されることも多いですが、都市の中で、この区域にこの機能（商業とか医療とか）を誘導する、ということを決め、その区域へは周辺からのアクセスをきちんと確保することで、全体として持続可能な都市を目指す取り組みです。



その実現手段である「立地適正化計画」という制度をつくって5年ほどたちますが、社会的課題を踏まえ、制度は少しづつ見直しています。激甚化する災害への対応の観点から、コンパクトシティと防災とをより連携するようにする法律の改正案を、まさに今、国会に提出しています。

もっと小さなスケールでは、「居心地がよく歩きたくなるまちなか」の取組を進めています。世界的に、歩行者空間や公共交通を大胆に導入するように公共空間を改変し、民間空間と合わせて「まち」全体を快適で魅力あるものにする取組みが進んでいます。国内でも優れた事例はいくつもあります。このような取組みを一層進めるべく、上記の法律案の中で、取組みを後押しする制度の新設等を盛り込んでいます。

3. ご自身が担当されている業務内容について教えてください。

私自身は、都市計画のうち、都市施設に関する制度と、コンパクトシティの取組を担当しています。法律は、すべてが詳細に規定されているわけではないので、「この場合はどうなるか」ということを判断する場面が多くあります。その際は、法律の趣旨やこれまでの運用を踏まえ、判断していきます。制度の運用にあたって生じている問題に対しては、事例集や手引きなどを作ったり、現場で直接意見交換をしたりしながら、よりよい運用を目指すとともに、日々新たな制度を検討しています。

コンパクトシティの取組については、実際に制度を活用して計画を策定する自治体の方々等と相談しながら、各地の取組みを後押ししつつ、今後の政策に向けて、課題を蓄積、検討していきます。

2. でも触れましたが、いままさに国会に法律案を出しています。法律案ができるまでには、長いプロセスがあり、様々な専門性を持つ職員が連携して、作り上げていきます。また、新たな政策のヒントは常に現場にあるので、現場で多くの方と議論することが重要だと考えています。

4. 苦労する点や、やりがいについて教えてください。

都市行政は総合的な面が強く、土木だけでなく、法律、建築、造園などさまざまな知見が必要で、さらには経済、福祉、文化等の様々な分野とも密接にかかわっています。1人ですべてをできる人はいないので、省内外で多様な専門性をもった関係者と仕事をする機会が多くあります。実際のプロジェクトにおいては、関係者の種類も数も多いので、こちらも調整には困難が伴います。

一方、だからこそおもしろい仕事なのだと思います。1人では決してできないことが、多様な関係者が同じ方向を向けば実現できます。そして、制度というツールを使って世の中を変えるのは国にしかできない仕事で、そこが国の仕事の醍醐味だと思っています。



そして私にとっての何よりの財産は、行政、民間、学識など様々な分野で、「このまちをよくしたい」という想いをもって取り組んでいる方とたくさん出会えたことです。だいたいの場合、「成功事例」といわれる事例の背景にあるのは、華麗なサクセスストーリーではなくて、現場の方々の地道な取組の積み重ねです。私も仕事がうまくいかないときには、その方々の顔が頭に浮かび、「もっと頑張らなければ」と思い直すことがよくあります。

5. 国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

上野公園、御堂筋、タイムズスクエア、シャンゼリゼ…、どれも決して偶然にできたものではありません。多くの先人たちがよい都市、よい空間を作りたいという強い思いをもって作り上げてきたものです。そしてその背景には必ず「しくみ」が存在します。

「都市」「まちづくり」は身近なテーマなので、誰だって「ここがダメだ」とか「こうするべき」とか、居酒屋とか SNS とかで一丁前に「語る」ことはできます。でも、どうせだったら、自分の仕事として、たとえ少しづつでも、現実をよくしていきませんか？

都市の仕事は楽ではないけれど、一生懸命取り組む甲斐のある、とてもおもしろい仕事です。みなさんと一緒に働けるのを楽しみにしています。



アメリカ：ニューヨーク（左）と、フランス：ストラスブール（右）の街並み



ペルー：リマ（左）と、日本：姫路（右）の街並み